

2024/04/05 13:26

書類名:平手理子

「よくあお組作に髪をはって、思うような顔や髪ができるものだな」と自分
はあまり思ひしなかったら、彼のほうに云った。するとさきの若い人が、「
『に』、あれは眉や髪を自分で作るんじない。あの通りの髪や骨が骨の中に埋
っているのが、髪と骨の力で残り出すで、まるで土の中から髪を巻り出す
ようでものうがうけられてしまうのうはげはない」と云つた。

自分はこの時ために髪形はほんまのものか思い出した、はたしてうながら
自らでもできる事と思いついた。それで急に自分も仁王が坐つてみたくなつ
たり見付けてやめてさくそく帰つた。

道楽箱から登と金持も出して、戸へ出て見る。せんべっての顔面で倒
れぞ寝。軽にするつもりで、木枕に抜かせた手鏡の奴が、たくさん横んであ
つた。

自分は一瞬大きいものを見て、勢いよく形り始めたが、不幸にして、仁
王は見当たらなかった。その次のにも運悪く見て当たる事ができなかつた。三番
目の仁王はいかつた。自分は人間であるを買つて跳ち立つて見たが、どうもこれに仁王を殺しているのはなかつた。ついに治癒の木にはとうていに
仁王は生つていいものだと悟つた。それで連座が今日まで生きている理由もは
何だった。

第七夜

何でも大きな船に乗つてゐる。
この船が毎日毎晩すこしの距離なく高い壁を立てて進んで行く。大
きい船である。けれどもどちらへ行くんだか知らない。ただ波のからぬ火船
のうらゆらが揺れる。それが高い帆の上まで来てしまつて立つてゐるかと
思と、いのちの壁の高い帆を追つて、先へ行つてしまふ。そして、
しまつては高火船のうちにじつといつてまた次の壁に沈んで行く。そのたん
びに高い波が立つのうで、野原のうに波が遠く来る。するとおさげの壁を立て
てその壁を抜け行く。けれどもはじめて造つかない。

ある時は自分は、船の男を叫まえて聞いて見た。
「この船へ行く人ですか？」
船の男は見目なさいをして、しばらく自分を見ていたが、やがて、
「なぜ」高い壁に立つた。

「ほらちよに日を描かけるようだから」

船の男は笑ひと笑つた。そして向うの方へ行つてしまつた。

「舟へ行く日、果て東か、それほく出雲か、出日出の、那須は西か、それも
本水か、身は波の上、且、其ぞ、御れ我せと叫んでる。舟へ行って見たら、
水丸が大勢うちて、大きい舟を手綱でていた。

自分が大変心地くなつた、いつまへ上がる事が分らない。そしてどこへ

2024/04/05 13:28

書類名:平手理子

行くのか知れない。ただ黒い煙をはいて岩を切つて行く事だけはしたしかであ
る。その岩はそこそこ大きいものであつた。隣屋はなく音を響く。時には、第
二にもうつた。だたの黒い瓦葺だけはいつも白い瓦を吹いていた。自分は
大変に驚いた。こんな静ないるよりいつそ手を抜けて死んで死んでおおかと思
つた。

場合はたくさんいた。たいへいは買入のようであった。しかひいろいろな隣
をしていた。空が墨で船が墨の間に置かれていた。一人しながら壁の脇からかか
けて、しきりに泣いていた。隣をぐんぐんの白が白く見えた。しかし隣にいるのうな
洋芋を見ていた。この女を見た時に、恵いの仕自分ばかりではないだと気が
がついた。

あら焼垣の上に出て、一人で星を眺めついたら、一人の買入が来て、天文
学をはじめて尋ねた。自分はつまらないから死のうと云はつてゐる、天
文学などを教える必要がない。黙つていた。するとその男が牛の頭に
ある星の話をして聞かせた。そして星も海もみんな作るものだと云つた。
最後に自分達を信頼するかと尋ねた。自分は笑つて見つかった。

片手ソローマーによつた大きな衣裳を着た若い女の向うになつて、
汗を拭いていた。その折より月の高い位置の男が立つて、傍依も頃っている。
そののが月の高い位置の男が立つて、傍依も頃っている。それが笑つて
いい様子であった。船に見ている事は覚えているようであった。

自分はますます船にならなかつた。どうぞ見事に決心した。それである
時、あたりに人の多い時分、思い切つて舟の中央へ入んだ。そこが一
自分の足が木板を蹴れて、船と繋がれたその隣に、常に命が危なくなつ
た。心の底よりよせよせよかったと思つた。けれども、もう遅い。自分は既ち
にもう舟のへ入り込むまいとなつた。まだ大空でできていた船と見え
て、身体は船を駆けたけれども、足は容易に水に近づいて来る。いくら足を滑つても近づいて
來る。水の色は黒つた。

そのうち自分が舟の通り黒い星を吐いて、通り過ぎてしまった。自分はどこへ
行くんだから知らないでも、やっぱり泳いでいる方がよかつたと悟りな
がら、しかもその活力を利用する事ができず、無限の後悔と懲りを抱いて
黒い波の方へ船かに落ちて行った。

第八夜

店屋の敷物を買いいら、白い着物を看てかたまつた三四人が、一派にい
らっしゃいと云つた。

眞中に立て見呑すと、四の間の部屋である。窓が二方に見て、狛の双方に
縁が付いている。狛の数を點定したら六つあった。

15:17

http://www.access.gr.jp/cards/000145/fix/79_143723.html

2024/04/05 13:28

書類名:平手理子

自分はその一つの前へて脚をおろした。すると背筋がぶくりと云つた。よ
ほど坐り心地がよくて立た持である。隣には手紙の隠し立正在候つた。隣の
代には書はれていた。それから櫻花舟子が隣に見えた。桔子の中には人がなか
つた。皆の外を通る在る人の隣から上よく見えた。

庄太郎が女性と連れられてゐた。庄太郎は高い腰の間のバナナの手紙を買つて立つ
てゐる。女もまた高い腰の間のちら見えのものらしくとれない。双方とも舟壁
のよつて立つた。よく女の眞をよしと思ううさに通り過ぎてしまつた。

金利が馬鹿に引いていた。明月を口へあががつてゐんで、穏やかに隣
に隣されたように思ひれた。肥れた腹ひんで通りぬいたものから、気がか
かりでまらない。生鶴鶴が結されているように思つた。

昔者が出た。まだ母と杜でしない。畠田の娘が私で、何だか隣に隣
がない。熟を剥げていて。色が秋の尋の尋どほり。それで隣を直して、
どうぞと云つたが、相手はどうして隣の隣の手に持つてゐない。

する白い羽音を聞き大きめの男が、自分の舟へ来て、隣と手を持つて自分
の隣を敲め出した。自分は無い手を認つて、どうだらうになるだろうと見
ねた。白い男は、何にも云わずに、手を持つて舟壁の邊で軽く自分の隣を叩
いた。

「まあ、白い男だが、どうだらう、君になるだろう」と自分は白い男に無い
白い男は自己も音を立てる。ちかちかと音と隣をしまつた。

隣に立ち形一つ立つて見る。舟壁を押つて立つた。舟の鳴るたびに
黒い舟底を覗んで来るので、恐ろしくなつて、やがて隣をじた。すると白い男
が、こう云つた。

「眞の舟は皆金魚を買ひなすつた」

自分は見えないと云つた。白い男はそれがりて、しきりと隣を境らして、
すると突然大きな声で眞と云つたものがいる。はつと隣を割けると、白い男
の隣の方で自らの聲を見えた。人の聲が釋えがた、と思うと、白い男が舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

やがて、白い男は自分の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばなくなったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛

ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばばになったから、安心して隣を見た。眞の舟、眞の舟、眞の舟、眞の舟
で、やがて、白い男が舟の隣へ届いて、耳の邊を刈り始めた。毛が前の方へ飛
ばす。そこそこ立つて、小さい舟を立てる。手を取つて舟を走つて立つて、眞の舟
手の方の隣を押さえて立ち向けて。自己と人との事はまるで見えて見え
つけた。隣の音ぢやきさきさき。

自分がはるかの隣の舟の隣へ飛ぶ。耳の邊を刈り始めた。

◎推敲表

26

□誤字・脱字、語の誤用はないか。

□句読点は適切に打たれているか。

□送り仮名、仮名遣いは正確か。

□くだけすぎた口語表現はないか。

□主述等の対応に乱れはないか。

□一文が長すぎることはないか。

□主題文がきちんと立てられているか。

□説明文が適切に書かれているか。

□決まりきった表現の重複はないか。

□接続語が適切に用いられているか。

図1

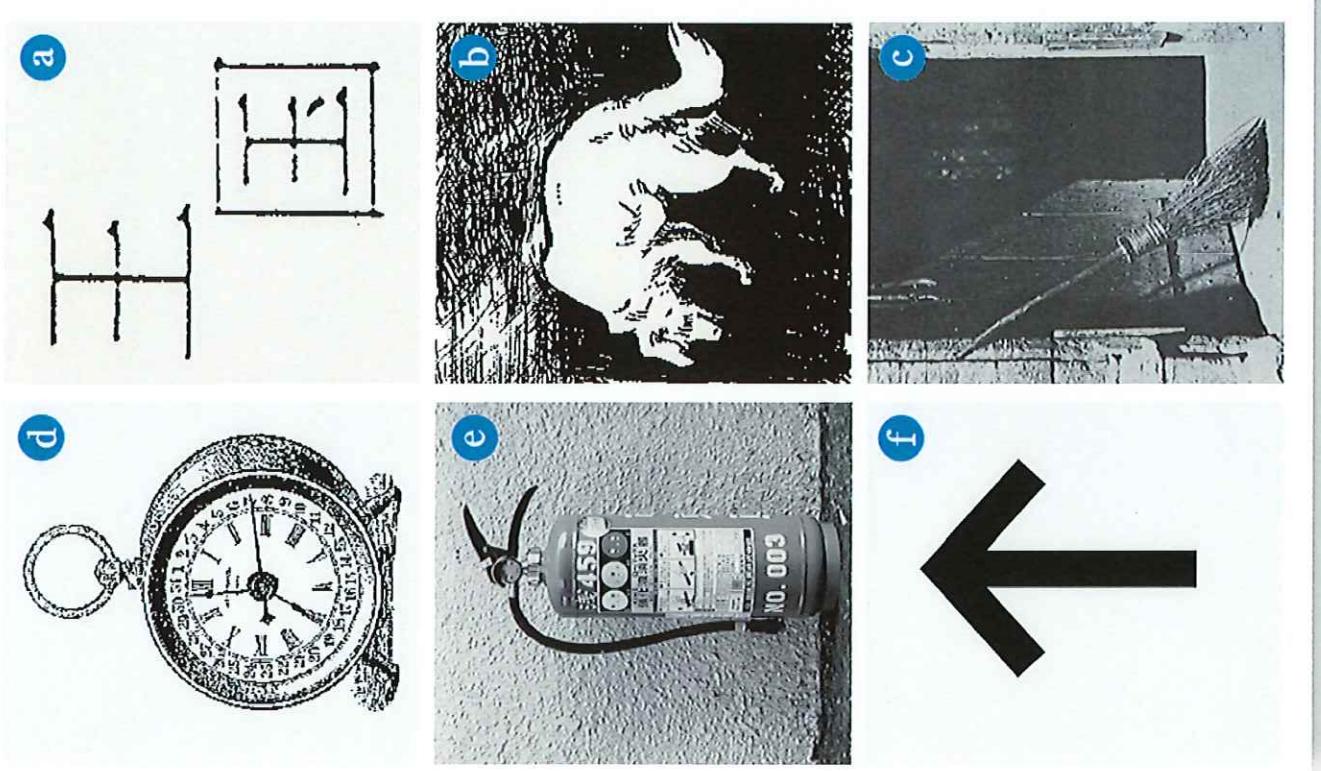
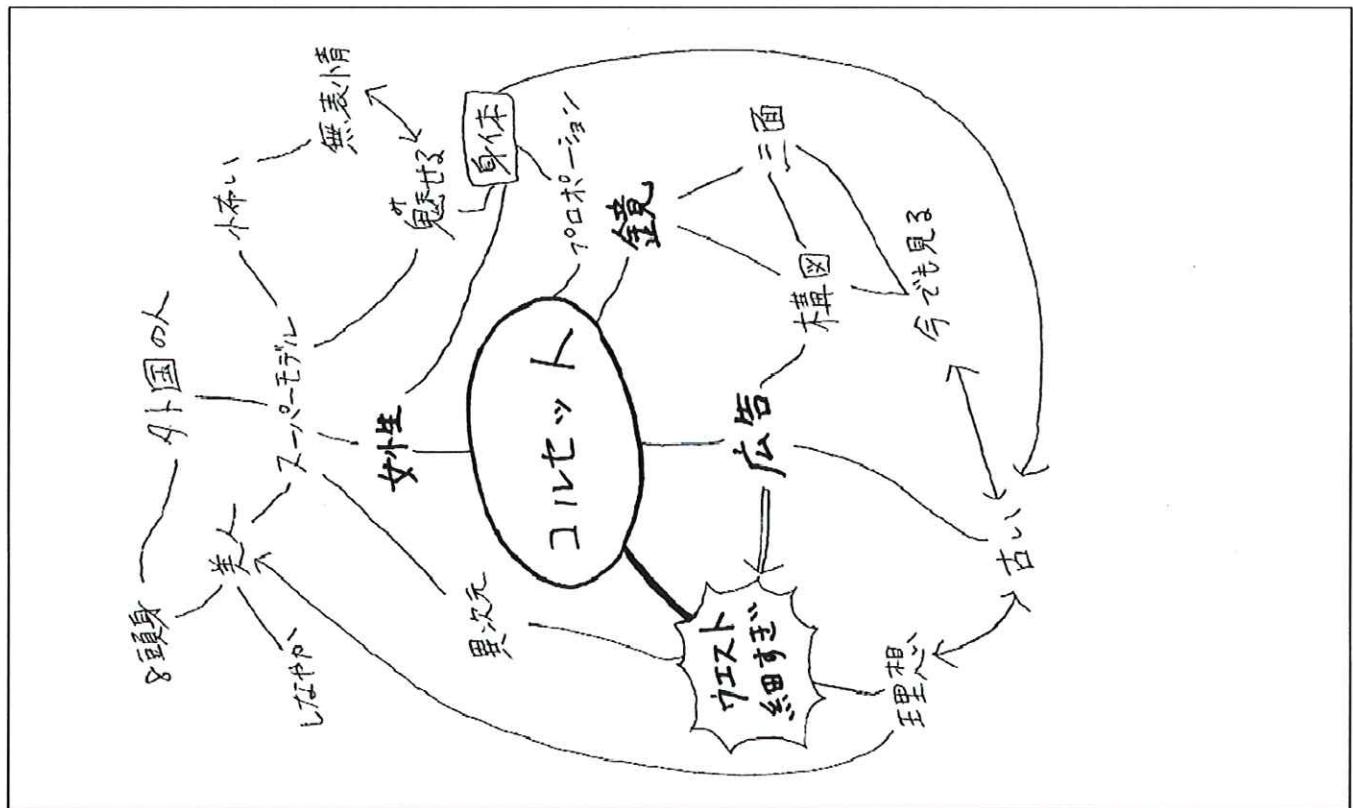


図2 イメージマップ例(10ページ「パルセットの広告」)





現地代表 中村哲



[トップページへ戻る](#)

[Top» ペシャワール会/PMSとは» 現地代表 中村哲](#)

[ペシャワール会/PMSとは](#)

[現地代表中村哲](#)

[ペシャワール会/](#)

[PMSのあゆみ](#)

[会則](#)

[当会へのご支援](#)

[現地訪問について](#)

現地代表 中村哲

氷河の流れのように (中村 哲)

農村や下町に行けば、そこには殆ど昔と変わらぬ人々の生活がある。そして我々の活動も、これらの人々の涙や笑いと共にある。何世紀も営まれてきた人々の暮らしが、たかだか10年やそこいらのプロジェクトで変わるものではない。しかも、俗にいう「進歩」や「発展」が本当にこの人々の幸せにつながるかどうか、私は疑問に思っている。

我々の歩みが人々と共ににある「氷河の流れ」であることを、あえて願うものである。その歩みは静止しているかの如くのろいが、満身に氷雪を蓄え固めて、巨大な山々を確実に削り落ろしてゆく膨大なエネルギーの塊である。我々はあらゆる立場を超えて存在する人の良心を集めて氷河となし、騒々しく現れては地表に消える小川を尻目に、確実に困難を打ち碎き、かつ何かを築いてゆく者でありたいと、心底願っている。

略歴

▼
ペシャワール会現地代表：PMS(ピース・ジャパン・メディカル・サービス)総院長。

1946年福岡県生まれ。九州大学医学部卒業。国内の病院勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州(現:カイバル・パクトゥンクワ州)の州都ペシャワールのミッション病院ハンセン病棟に赴任しパキスタン人やアフガン難民のハンセン病治療を始める。その後難民キャンプでアフガン難民の一般診療に携わる。1989年よりアフガニスタン国内へ活動を拡げ、山岳部医療過疎地でハンセン病や結核など貧困層に多い疾患の診療を開始。2000年から、旱魃が厳しくなったアフガニスタンで飲料水・灌漑用井戸事業を始め、2003年から農村復興のため大がかりな水利事業に携わり現在に至る。専門=神経内科
(現地では内科・外科もこなす)

受賞歴

▼
1988年(昭和63年)

外務大臣賞(外務省)

1992年(平成4年)

毎日国際交流賞(毎日新聞)

1993年(平成5年)

西日本文化賞(西日本新聞)

1994年(平成6年)

第1回福岡県文化(交流部門)賞(福岡県) *ペシャワール会として受賞

1996年(平成8年)

読売医療功労賞(読売新聞)

厚生大臣賞(厚生省)

1998年(平成10年)

朝日社会福祉賞(朝日新聞)

2000年(平成12年)

アジア太平洋賞特別賞(毎日新聞・アジア調査会)

2001年(平成13年)

著書『医者井戸を掘る』»が第7回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞

2002年(平成14年)

日本ジャーナリスト会議賞(日本ジャーナリスト会議)

若月賞(長野佐久総合病院)

第1回沖縄平和賞* ペシャワール会として受賞

2003年(平成15年)

マグサイサイ賞» (平和と国際理解部門)

大同生命地域研究特別賞(大同生命保険株式会社)

2004年(平成16年)

イーハトーブ賞 »(岩手県花巻市)

アカデミア賞 国際部門(全国日本学士会)

2008年(平成20年)

第3回モンベル・チャレンジ・アワード受賞(モンベルクラブ・ファンド)

2009年(平成21年)

農業農村工学会賞 (旧農業土木学会)

(The Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering.)

平成21年度福岡市市民国際貢献賞 *ペシャワール会として受賞

2010年(平成22年)

アフガニスタン国会下院 表彰

2013年(平成25年)

福岡アジア文化賞大賞受賞／第61回菊池寛賞

2016年(平成28年)

秋の叙勲で旭日双光章受章

2017年(平成29年)

第8回KYOTO地球環境の殿堂入り

2018年(平成30年)

アフガニスタン国ガニ大統領より ガジ・ミール・マスジッド・カーン勲章授与»

DVD「アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和」»が平成30年度農業農村工学会メディア賞受賞 *日本電波ニュース社及びペシャワール会として授賞

アフガニスタン・クナール川下流域の灌漑事業が、平成29年度土木学会技術賞授賞

著書

▼
アフガン・緑の大地計画[改訂版]／ *PMS (Peace Japan Medical Services) & ペシャワール会刊

天、共に在り

人は愛するに足り、真心は信ずるに足る

アフガニスタンで考える－国際貢献と憲法九条－ その他多数»

[English サイトマップ](#)

Copyright © 2002 Peshawar-kai

2024/04/05 15:01

外国籍児1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査 - 日本経済新聞

お申込み ログイン

トップ

朝刊・夕刊

速報

マーケット

外国籍児1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査

社会・暮らし

2019年9月27日 18:20



横浜市の日本語支援拠点施設「ひまわり」で学ぶ来日間もない外国の子供たち

文部科学省は27日、外国籍の子どもの就学状況について初めての全国調査の結果を公表した。日本に住む義務教育相当年齢の外国籍児12万4049人のうち、15.8%に当たる1万9654人が、国公私立校や外国人学校などに在籍していない不就学の可能性があることが判明した。

外国人労働者の受け入れが拡大する中、不就学児童の増加が懸念されており、就学支援や日本語教育の充実などが求められている。

調査は2019年5月時点で把握している状況について、市区町村教育委員会に報告を求めた。調査対象とした12万4049人のうち、各教委から11万4214人について報告があり、うち10万1399人が日本の中学校や外国人学校などに通っていた。

残りの外国籍児のうち、実際に不就学だったのは1000人で、教委が家庭訪問などをしたが就学が確認できなかったのが8768人いた。さらに9886人については住民基本

<https://www.nikkei.com/article/DGXMXZ050303100X20C19ASCR8000/>

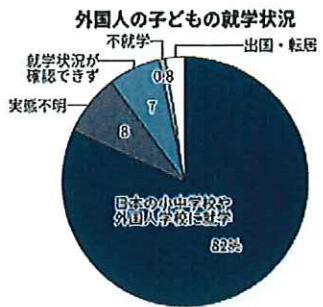
1/8

2024/04/05 15:01

外国籍児1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査 - 日本経済新聞

台帳には登録されていたが、そもそも確認の対象にしていないため、実態がつかめていない。文科省はこれらを合計した1万9654人について不就学の可能性があると判断した。

文科省によると、外国籍の子どもが公立の学校に就学を希望した場合、国際人権規約などを踏まえて入学できる。ただ就学の義務はなく状況確認の対象外としている教委もある。



(注)日本の中学生に当たる年齢の外国籍児の状況

不就学の可能性がある子どもは都道府県別では東京都の789人が最も多く、神奈川県(2288人)、愛知県(1846人)が続く。政令市では横浜市(1675人)や大阪市(1117人)が多かった。

外国籍の子どもが1人以上いたのは1196市区町村で全体の68.7%。全体の約3分の1の市区町村が、外国籍の子どもがいる家庭に小中学校入学前に就学案内を送つていなかった。日本語教育の指導者がいるのは502市区町村で、指導者4252人のうち常勤は6%で非常勤やボランティアが多かった。

横浜市は17年9月、来日間もない子どもに1ヵ月間、日本語などを教える日本語支援拠点「ひまわり」を開設した。日本の学校に週2日、ひまわりに3日通う。出川進校長は「学校に早くはじめよう、自分の気持ちや体調を言える水準にしてあげたい。外国籍の子どもには他国との懸け橋になってほしい」と話す。

外国人教育に詳しい愛知県徳大の小島祥美准教授は「学校は多文化教育などを通じて子どもたちの外国への理解を深め、外国籍の子どもたちの仲間づくりを後押ししてほしい」と指摘している。

<https://www.nikkei.com/article/DGXMXZ050303100X20C19ASCR8000/>

2/8

2024/04/05 15:01

外国籍児1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査 - 日本経済新聞

[アプリで聞く](#)

春割ですべての記事が読み放題
有料会員が2カ月無料

春割で無料体験する

[無料会員に登録する](#)[ログインする](#)

有料会員限定

キーワード登録あなたの
重要なニュースを
ハイライト



日経電子版 紙面ビューアー

[詳しく見る](#)

保存

関連キーワード

[文部科学省](#) [不就学](#) [出川進](#) [小島祥美](#) [外国籍児](#) [全国調査](#) [就学状況](#)
[外国籍](#)

関連記事

<https://www.nikkei.com/article/DGXJUZ050303100X20C19ASCR8000/>

3/8

速報ニュース

14:37 ウーバー、自家用車のライドシェア実演 8日から始動

14:13 東証14時 日経平均、安い水準で一進一退 押し目買いが下支え

14:11 遊浴服、ボートチップスなど貿易規制延長 「年月」表示も

14:10 外為14時 円相場、上昇 151円台前半

14:10 ワークポート、佐賀で軽機支店 人材需要対応へ支社開設

4/8



アクセスランキング

15:00 更新

1. 日経平均一時900円安 日本株驚き中東発リスクオフの波
2. イスラエルの誤算、世論頂み避え難立 ハマスと衝突半年
3. 「上司の顔色ばかり」「やばい宣傳過く」 不正企業の内幕は
4. 「紅麹」有毒成分、カビが外部混入か 23年製造3割で検出
5. 常盤ドンキの倒折 パンパシHD、アジアで売り場が逃走

特集記事（PR）はこちら

持続可能な経営のあり方を学ぶ講座

■ スキルアップ



POINT解説
生成AIは比べて使い分ける時代に



ポーチとして使えるレザーサコッシュ

■ 未来ショッピング



サロン級！進化中の美容機器に注目

THE NIKKEI MAGAZINE



問診で聞かれる「家族歴」なぜ重要？

Gooday



サステナブルデザインがもたらす変革

■ 世界の実験不動産



同世代の年収っていくらぐらい？

■ 日経伝播版



知っておくと便利な無料AIツール群

BizGate

<https://www.nikkei.com/article/DGXJZ050303100X20C19ASCR6000/>

2024/04/05 15:01

外困社見1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査・日本経済新聞

5/8

<https://www.nikkei.com/article/DGXJZ050303100X20C19ASCR6000/>

2024/04/05 15:01

外困社見1万9千人が不就学か 文科省、初の全国調査・日本経済新聞

6/8

セレクション

未来苗「未来の子どもたちのために何ができますか？」

読者のアイデアと大和ハウス工房の講評

日経優秀製品・サービス賞2023

素材付ん引 「コロナ後」対応 35点を紹介

NIKKEIニュースレター

日経電子版が提供するニュースレターサービス「NIKKEI Briefing」などのご登録はこちら

B5レポート

「日経ニュースプラス9」「NIKKEI 日度サロン」協賛フェローや記者が出演

トレンドウォッチ

新着注目ビジネスライフスタイル

新着注目ビジネスライフスタイル

新着注目ビジネスライフスタイル

日本経済新聞社の関連サイト

日本経済新聞社について

日経電子版について

サイトポリシー | サイトマップ | 利用規約 | ヘルプセンター | よくある質問 | 打正・おわび | 著作権 | リンクポリシー | クッキーポリシー | 外部送信 | プライバシーセンター | 電子版広告ガイド | 法人のお客さま

No reproduction without permission

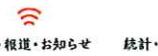
お問い合わせ

サイトに関するご意見ご要望



English よくある質問

サイト内



文化庁の紹介

政策について

行事・シンポジウム

広報・報道・お知らせ

統計・

ホーム > 政策について > 文化行政の基盤 > 所管の法令等 > その他 > 日本語教育の推進に関する法律について

ホーム > 政策について > 文化行政の基盤 > 所管の法令等 > その他 > 日本語教育の推進に関する法律について

日本語教育の推進に関する法律について

[日本語教育の推進に関する法律（概要）](#) (595KB)

[日本語教育の推進に関する法律（全文）](#) (153KB)

[日本語教育の推進に関する法律の施行について（通知）](#)

[日本語教育推進会議](#)

[日本語教育推進関係者会議](#)

[日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（令和2年6月23日閣議決定）（概要）](#) (201.9KB)

[日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（令和2年6月23日閣議決定）（全文）](#) (281.5KB)

[日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針について（通知）（令和2年6月23日）](#)

[日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（令和2年6月23日閣議決定）（概要） 英訳版](#) (87.7KB)

[日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（令和2年6月23日閣議決定）（英訳版）](#) (220.1KB)

文化庁の紹介

[文化庁長官](#)

[文化庁の組織](#)

[文化庁案内図](#)

[所管の法人等](#)

[シンボルマークについて](#)

[文化庁創立50周年](#)

政策について

[文化行政の基盤](#)

[芸術文化](#)

[文化財](#)

[著作権](#)

[国際文化交流・国際貢献](#)

[国語施策・日本語教育](#)

[宗教法人と宗務行政](#)

[博物館](#)

[各種助成金・支援制度一覧](#)

[文化審議会・懇談会等](#)

[日本書](#)

[食文化](#)

[文化觀光](#)

[食文化推進本部・文化觀光推進本部](#)

行事・シンポジウム

[広報・報道・お知らせ](#)

[報道発表](#)

[その他のお知らせ](#)

[日本文化の海外発信](#)

[広報](#)

[統計・白書・出版物](#)

[統計・調査研究等](#)

[白書・年次報告等](#)

[出版物・パンフレット等](#)

信息公开・個人情報保護 文化の
ウェブアクセシビリティについて

Cn



PDF形式を閲覧いただくためには、Adobe Readerが必要となります。

お持ちでない方は、[こちら](#)からダウンロードしてください。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shoken_hore/other/sushin_houritsu/index.html

1/2

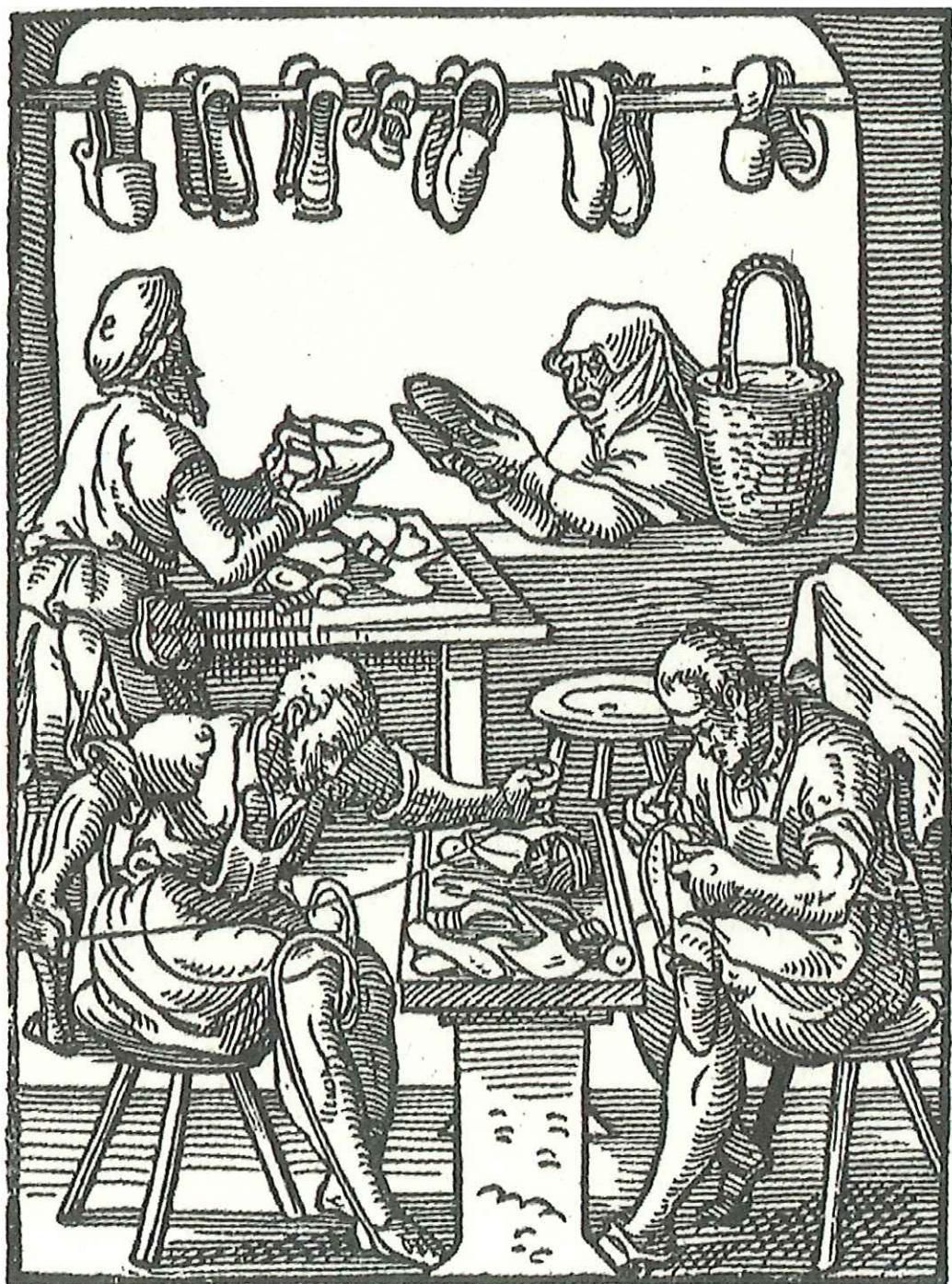
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shoken_hore/other/sushin_houritsu/index.html

2/2

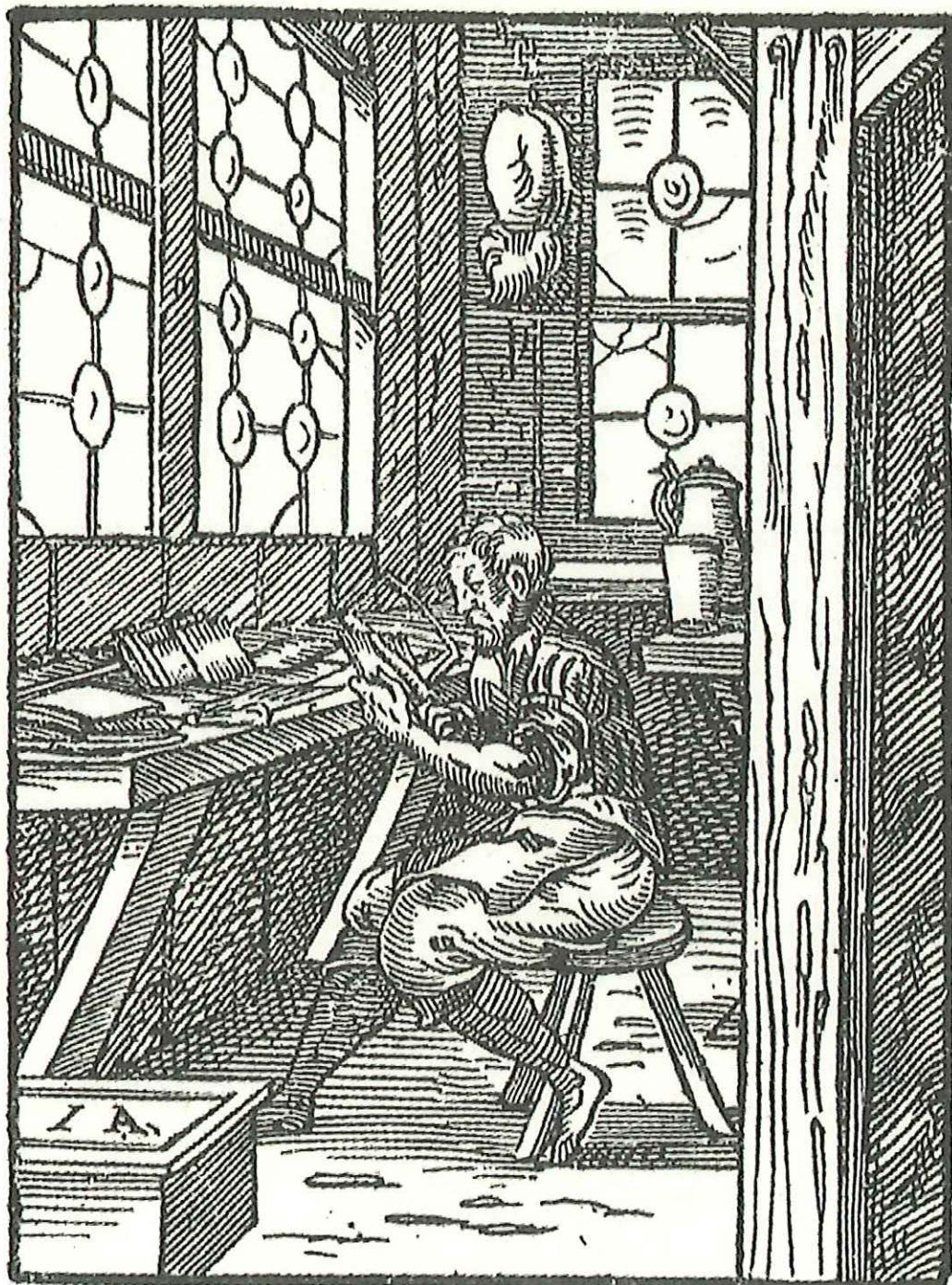
中世ドイツの職人たち（ヨースト・アンマン画 16世紀）



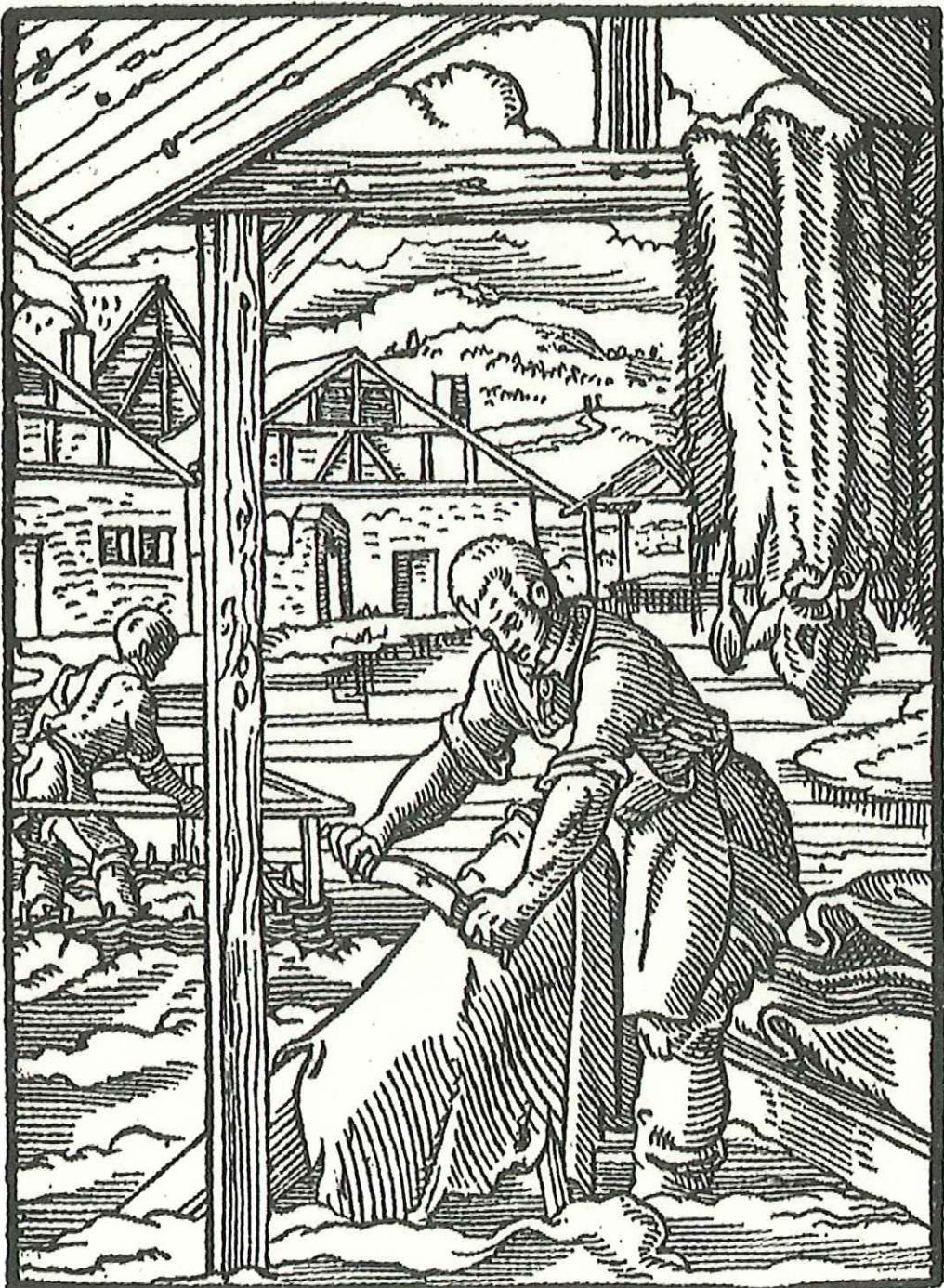
鐘を作る職人



靴を作る職人



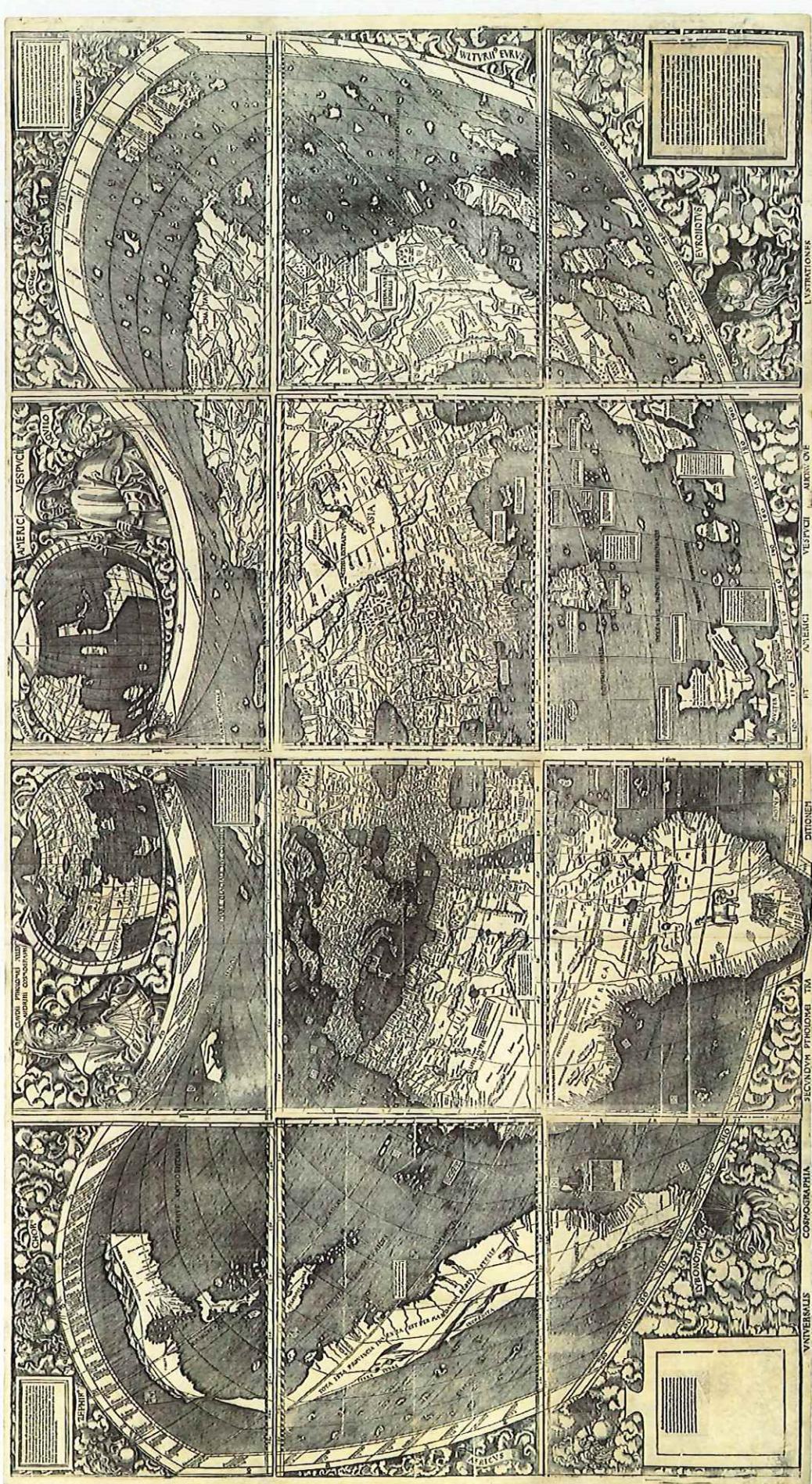
織（くし）を作る職人



革を染色する職人

◎カトハルヌー・リカルドー地図

32



◎コロンブス肖像

